

2025年11月25日

## 新造船「蓉翔丸」進水

CO<sub>2</sub>排出量 約20%削減

株式会社フジトランス コーポレーション（本社：名古屋市港区、代表取締役社長：津本昌彦）は11月21日、広島県尾道市の内海造船株式会社 因島工場で内航 RORO 船「蓉翔丸」の命名・進水式を行いました。



現在運航している「蓉翔丸」の代替船として建造を進めており、2026年春に名古屋港・仙台港・苫小牧港を結ぶ航路に就航する予定です。艙内は7階層になっており、上部船首形状は、従来型船首形状と比べて船首を平坦な構造とすることで、積載面積を増加させています。ベッカーツイストフィンを初採用しプロペラ旋回流によるエネルギーロスを推力に変換しています。また船型の工夫も含め、前蓉翔丸と比べてCO<sub>2</sub>排出量を約20%低減する見込みです。

「蓉翔丸」の船名の由来は、日本の象徴であり、当社のファンネルマークで用いている富士山の雅称 芙蓉峰の「蓉」を採り、お客さまと

当社が更に飛翔していく意味を込めて「翔」を採用しています。

モーダルシフトを推奨し、当社船舶を活用した内航輸送でお客さまと共栄を図って参ります。

### 睿翔丸 概要について

	総トン数	約 16,200 トン
	全長	約 169.99m
	航海速度	約 23.0 ノット
	積載能力	乗用車 930 台 +シャーシ 150 台
	航路	名古屋～仙台～苫小牧～仙台

**▶ 省エネ装置**

**1 船首張り出しシステム形状**  
船首部の波切を改善

**2 省エネ型オートパイロット**  
航路損失によるエネルギーロスを低減

**3 バルブ付きツイスト舵**  
プロペラ旋回流によるエネルギーロスを推力に変換

**4 ベッカーツイストフィン**  
プロペラに流れ込む水の流れを最適化

